

25 ゴム・タイヤの製造に関わる作業

【関連する職種(一般の呼称)】	
ゴム製品製造、タイヤ製造	
【石綿製品(代表的な2, 3)】	
石綿含有摩擦材(ブレーキパッドなど)	石綿パッキング、ガスケット製造
石綿織物・布・ひも・ロープ・テープ・リボンなど	石綿保温材・煙突材

●大きなタイヤ工場では、様々な種類のタイヤを製造する加硫機が相当数配置されています。加硫機はゴムに熱を加えてタイヤを成型する機械です。加硫機は順番に補修・修理し、工場内では稼働と修理の機械が混在していますので、修理は工場のどこかで行われています。加硫機が一番内部はタイヤの金型が置かれ、その周囲には釜があり蒸気管から蒸気が送られてきます。釜の周囲には石綿保温材が巻かれており、この保温材として石綿が使用されていることがありました。金属のケーシング等で覆われていますので、石綿は通常は空気中には飛散していないと考えられます。

ふたも同様に金属で覆われていますが中には石綿保温材で、石綿が使用されていることがありました。この保温材は、補修や修理においてもほとんど取り替えることはありませんが、石綿保温材を取り替えた場合には、工場内に石綿が飛散していた可能性があります。

●以下の写真は、小さな町工場の作業の写真です。手作業でタルクを塗って、ゴムを重ねています。



A タルク入りのバケツにハケが入っています。タルクにはしばしば石綿が不純物として混入していました。



B ゴムにハケでタルクを塗っているところ。タルク粉をまんべんなく塗っておかないと、ゴム同士がくっついてしまいます。塗布する際にはタルクが飛散した可能性があります。



C 加工用ゴムです。この工場では、このようなゴム板を製造し、靴底等に加工する工場へ出荷します。運搬する際にも、タルクが飛散した可能性があります。

※掲載した写真はイメージ写真です